

特 集

新装置紹介①

血管撮影装置

患者・術者双方に配慮した被ばく低減装置

◆はじめに

今年の二月に新しくアブレーション治療を中心とした心臓血管内治療、脳血管内血栓回収などの緊急治療に対応したバイプレーン装置が導入されました。今回は、様々な場面に対応可能な Alphenix Biplane 装置について紹介します。

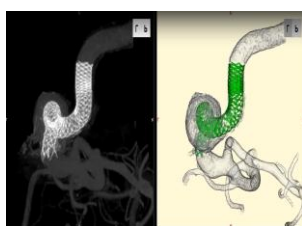
◆特徴

この装置の特徴は、高精細検出器を搭載しており、最小 1.5 秒までの拡大画像が得られます。脳血管内治療のコイリングやステント留置、血栓回収など、血管を拡大した画像を見ながら治療することが出来ます。また、CT や MRI で実用化されている AI を活用した画像処理技術からリアルタイム画像処理へと応用した α Evolve imaging により、ノイズ抑制と被ばく低減を可能にしました。

これにより、旧装置に比べて被ばく線量が抑えられ、長時間の治療に装置が耐えられるようになっていきます。



【高精細モード】



【Stent imaging】

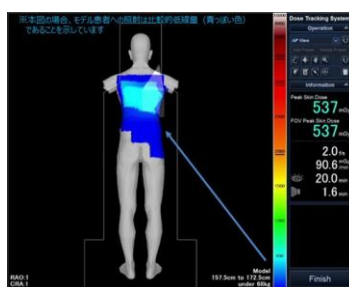


【血管撮影室】

他には、PCI などを使用するステント強調画像が行えるようになり、緊急の心カテ治療にも心カテ専用装置と同様な治療が可能となり、より柔軟な対応が可能となります。

DoseRite DTS では、仮想患者モデル上に計算された入射皮膚線量をリアルタイムに表示することで、被ばくの状況が視覚的に分かるようになり、術中の被ばく線量のリスクが、術者に伝わりやすくなりました。

他にも紹介出来なかった機能もありますが、新たに導入された装置を活かし、様々な症例に対応出来るよう日々努力し、地域救急医療に少しでも貢献出来るよう頑張りたいと思います。



【DoseRite DTS】



【ステント強調画像】